

ほけんだより

病児・病後児保育「みどり」
令和8年6月発行



今月のテーマは「**夏の感染症**について」です！

感染症は冬にかかるイメージがあるかもしれませんが、夏でも特有の様々な感染症が子どもの間で流行します とくに赤ちゃんは体温や汗の量を調整する機能が未発達で、暑さに対応しきれず体力を失いやすいです
予防したい適切に対処したいして、夏を元気に過ごしましょう

小児の間で流行することが多い感染症

アデノウイルス



咽頭結膜熱（プール熱） 代表的な3つの症状は、「発熱」「のどの痛み」「結膜炎」です 感染経路としては飛沫感染、接触感染、またプールの水を介した感染があります。

流行性角結膜炎

目が充血して目やにがでます。目の痛みや異物感、まぶたの腫れをとまなうこともあります。

エンテロウイルス



手足口病

口のまわりや口のなかに発疹や口内炎ができ、手のひらや足の裏にも小さい水ぶくれや赤い発疹がでる。おしりや膝などに発疹が出ることも発熱（時には40℃台の高熱）

ヘルパンギーナ



発熱とのどの奥周辺に水ぶくれがでます。飛沫感染や接触感染が多いため、予防には手洗いが大切です。症状から回復した後もしばらく便中に、ウイルスがでることがあるため、おむつ替えの後などは手洗いをしっかりしましょう。

感染症は冬に流行するイメージがあるかもしれませんが、春～秋も季節によって様々な感染症が流行します。年間を通して、手洗いや消毒などの基本的な感染対策をしっかり行いましょう。